

(専門試験 少年補導職員 No. 1)

『高齢社会白書（令和5年版）』（内閣府編）による65歳以上の者の生活環境に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 65歳以上の者の6割以上が賃貸住宅に居住している。
- イ. 養護者による虐待の種別を見ると、身体的虐待が最も多くなっている。
- ウ. 特殊詐欺の被害者の8割以上が65歳以上の者である。
- エ. 2015年以降、65歳以上の者の交通事故死者数は増加傾向にある。

- 1. ア, イ
- 2. ア, ウ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

正答番号 3

(専門試験 少年補導職員 No. 2)

近年の社会的養護の現状及び制度改正の動向に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 里親やファミリーホームに委託された要保護児童の数は増加する傾向にある。
- イ. 社会的養護を必要とする児童においては、全体的に障害等のある児童が増加する傾向にある。
- ウ. 満20歳に達した者については、児童自立生活援助事業の対象から一律に除外されることになった。
- エ. 民間事業者が養子縁組あっせん事業を実施する場合、従来は都道府県知事の許可を受ける必要があったが、法改正によって市町村長への届出のみで事業実施が可能となった。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

正答番号 1

(専門試験 少年補導職員 No. 3)

トールマン (Tolman, E.C.) とホンジック (Honzik, C.H.) による潜在学習の実験に関する記述として妥当なのはどれか。

1. ネズミに迷路を報酬なしで探索させると、当初は報酬ありの統制群に比べて遂行成績は伸びなかったが、報酬を導入した途端に遂行が急激に改善した。
2. 踏み板を踏むかひもに触れるかするとドアが開く仕組みの箱にネコを入れると、初めのうちは偶然に脱出するが、徐々に効率よくドアを開いて脱出できるようになった。
3. 回避不可能な状況で電気ショックを与え続けられたイヌが、回避可能な状況において、自ら電気ショックから逃れようとせずうずくまったままであった。
4. アカゲザルに対し同じタイプの弁別学習を行う課題を複数連続して取り組ませると、最初はチャンス・レベルであった正答率が漸進的に上昇し、最終段階ではほぼ完全正解に達した。
5. チンパンジーが箱や棒がばらばらに置かれた^{おり}檻の中で、箱を押すなどの行動レパートリーを組み合わせることによって、天井につるされたバナナを試行錯誤によらず取ることができた。

正答番号 1